

仙 台 教 区 報

カトリック仙台司教区本部事務局
〒980
仙台市青葉区本町1丁目2番12号
☎ 022(2222) 7371
FAX 022(2222) 7378
編集・発行 板垣 勤

いよいよ、教区でも

奉 仕 者 養 成 コー ス 始 ま る



司祭が不在のときの「主日の集会祭儀」や病人に聖体を配る際の奉仕者の養成が、教区内の小教区で差し迫った課題としてクローズアップされてきている。教区の各地では既に小教区、地域として信徒奉仕者が活動するなどの動きがあるが、教区全体をカバーするような奉仕者養成の動きは今までなかった。

全国的には日本カトリック研修センターで、同じ趣旨の研修が企画・実施され、また教区によっては独自に信徒を養成し、活動しているところもある。

仙台教区では小教区からの要望を受け、司牧評議会が中心になって「奉仕者養成コース」を企画、実施するため、教区生涯養成委員会とともに新しい養成チームを編成した。養成チームは早急な養成を求められている地域を優先して研修会を開き、活動を教区全体に広げることが目指している。

養成チームは教区生涯養成委員長・佐々

木博神父のもと、奉仕者養成の経験者と養成のための訓練を受けた、加美山恵子（花巻教会カテキスタ）さん、リーズ・ラミ（オタワ愛徳修道女会）さん、笹氣直哉（水沢教会）神父によって構成されている。新しいチームは最初の活動として、具体的な奉仕者養成コースの内容を決め、8月末頃からコースを開始できるように準備を進めている。

養成の具体策と内容

養成コースはカトリック中央協議会から発行されている『カトリック儀式書・ミサ以外のときの聖体拝領と聖体礼拝』を基礎に、信徒が小教区で役割を果たすことによって、小教区共同体が典礼をよく準備し、神の言葉と聖体によって養われ、育って行くことを目指すものである。

このプログラムは「何故、日曜日に共に集まるのか」「何故、信徒だけでも集会祭

儀を執り行なうことが出来るのか」など、信徒に養成の意味を理解してもらうことも大きな目的になっている。

研修は日曜日の午後5時間ぐらいを使っで行なわれ、病人に聖体を持っていく時の心構えと聖体の授け方、また、集会祭儀での聖歌の選び方や聖書朗読で大切にしたいことなど、実践的なものを取り入れて行なわれる。

コースを始める先だって養成チームでは信徒が積極的な奉仕者になるために、研修参加者が奉仕者の任命を受けて奉仕をすることになると限定せず、出来るだけ多くの人が参加するよう呼びかけている。チームでは全教区で信徒が奉仕について共通理解を持つことが出来るよう、小教区が合同で研修会を開き、信徒が参加しやすい方法を検討している。

これから始まる研修は多くの信徒にとって新しいことを学ぶことを意味するかも知れない。しかし、個人として、教会共同体として取り組むべき大切なこと、基本となることを分かりやすく学ぶ機会となるだろう。教区では各地から求められていた奉仕者養成コースが展開されることで、教区全体が活性化されることを期待している。

研修会開催について

養成チームの派遣を希望する場合、連絡は教区本部の佐々木博神父まで。

ナイス2 公式記録集

中央協から発刊される

「神のみ旨に基づく家庭を育てるために―家庭の現実から福音宣教のあり方を探る」と題されたナイス2公式記録集（以下、記録集）が、カトリック中央協議会から6月30日に発刊された。

記録集は「21世紀を目前にした今日日本におけるカトリック教会が総力を結集して取り組もうとしている福音宣教を理解し、さらに推進していくために、この資料集を活用してくださることを心から願っております」と発刊の言葉が語るように、これから教会で生かされることが期待されている。

三部に分けられた記録集は、一部・開催までの歩み、二部・第2回福音宣教推進全国会議、三部・答申と司教団文書、最後に付録がついている。

記録集で目立つことは全体の約半分が第一部で構成されていることである。これは全国会議（ナイス運動）という新しい教会の歩みによって、日本のカトリック教会が今までに増して福音宣教に積極的に関わろうとしている姿勢を表わしている。

第一部はナイス運動を理解するために大切な部分であり、そこではナイス1・ナイス2が何であるか知らずいたり、疑問に思っている人、これからナイスについて知ろうとする人に、基本的なことを知らせて

いる。解説では「ナイス運動」が「第二バチカン公会議」と「日本カトリック教会の基本方針と優先課題」を受けて展開されてきたことを再度確認している。続けて、第一部はナイス2開催までの歩みを詳細に紹介し、読者のナイス2理解を助けるものになっている。

第二部は昨年3泊4日にわたって長崎市で開かれたナイス2の全容を、詳細に記録している。

第三部では、ナイス2の「答申」と、すでに小教区に配布された小冊子「家庭と宣教」が収められている。

仙台教区では既に全小教区に小冊子「家庭と宣教」を配布し、小教区に備え付けて活用してもらうために公式記録集も配布している。

多くの信徒が記録集を読み、ナイス運動の理解を深めることで、福音宣教にさらに積極的に関わることが期待される。

こ 案 内
「共感から共有へ」と題された
ナイス2の公式ビデオの貸し出し
をしています。



問合せ先 教区本部事務局

◎スベルマン病院改築工事
改築を迫られていた管理棟の新築起工式
が7月20日に行なわれた。

仙台白百合短大に カトリック研究所 開設

仙台白百合短期大学に「カトリック（普遍的）・キリスト教を総合的に研究すること」を目的に、カトリック研究所が開設された。同研究所の開設は短大が長年暖めていたもので、6月11日に来賓を多数迎えて開所式を行なった。式では信徒で東北大学文学部教授の岩田靖夫さんが「ソクラテスの正義」と題した記念講演を行なって研究所の出版に華を添えた。

四年制大学の開設を目指す同短大では、キリスト教的伝統に基づく子女教育の教育現場での深化と具現のため、亡くなった安井光雄神父（仙台教区）の遺蔵書の一部と、短大発足時から収集してきたキリスト教関係の学術書約3千冊を基に研究所が活動を始めることを喜んでいる。

社会に奉仕する教会の窓口と位置付けられた研究所では、一部を除く蔵書を一般に貸し出すほか、研究所主催の講演会、研究会の開催などを予定している。

研究所は所長以下7名という所帯で始められたが、初代所長に就任した鈴木和義さんは「宮城県に唯一のカトリック大学であるから、地域のカトリック文化センター的役割を担うべきである」と常々考えていたことが実現したことで、新たな意欲を見せられている。

教区財政報告生口
まよし まよる

数年前から財政問題評議会が中心となって、教区の財政・財務の適正化が進められてきたが、この程一応の作業を終え財政報告がまとめられた。

これは、会計単位が一つであるカトリック仙台司教区全体の部門「教区本部・57教会・公益事業（教区が設置する2幼稚園）・その他」を統括した財政・財産状況をとりまとめたこと、宗教法人在る作成、備え付けの義務に応じるものである。

財政問題評議会では「適正化推進作業に際して、皆様から寄せられた協力に感謝するとともに、今後とも教区財政・財務について教区内で広く理解をいただいて、さらに教区の財政の健全化に努めた」と話している。

今回まとめられた財政報告は、教区として何らかの具体策の提示を求められている教会維持費のあり方や、教会施設の改修等に関わる協力的体制づくりなど、教区に山積する財政上の課題への取り組みのための第一歩となる。

1993年度 カトリック仙台司教区財政報告 (金額単位：千円)

1) 財産目録 (1994.3.31現在)

土地	275,303	(145筆 地積計163,224m ²)	施設設備引当金	227,911
建物	1,726,182	(94棟 延床面積21,198m ²)	退職給与引当金	40,071
造成墓地	14,664	(仙台鶴ヶ谷墓地 58区画)	借入金	7,437
祭儀備品	71,765		預り金	9,509
器具備品	82,197			
車	1,000		負債計	284,928 (B)
電話加入権	2,285			
現金・預金	645,870			
特定預金	230,860	(次年度繰越金以外の預貯金等)		
貸付金	1,030,014	(幹東北カトリック学園園舎 改築資金として)	正味財産 (A) - (B)	3,799,093千円
立替金	3,881			
資産計	4,084,021	(A)		

注) ドミニコ会関係の10教会分については、ドミニコ会が独自に財産目録を作成しているため、ここには含まれていない。

2) 資金収支計算書 (1993.4.1~1994.3.31)

経常収入	(363,184)	経常支出	(289,546)
教会維持費収入	120,870	宣教司牧費	17,008
献金収入	40,295	研修養成費	19,472
祭儀収入	44,490	祭儀費	13,851
寄付金収入等	78,855	寄付金支出	11,079
補助金収入	34,942	事務運営費	113,855
受取利息収入	21,266	人件費	114,281
その他の収入	22,466		
財務収入	(484,436)	財務支出	(696,391)
固定資産売却	42,059	固定資産取得	595,552
特別事業献金	347,956	特定預金繰入	29,172
貸出金回収	35,176	貸付金支出	70,000
貸出金利息	59,245	立替金等	1,667
内部資金収入	(37,950)	内部資金支出	(37,950)
事業収入	(34,232)	事業支出	(31,799)
前年度繰越金	(819,960)	次年度繰越金	(684,076)
資金収入計	1,739,762	資金支出計	1,739,762

諸国宗教者の交わり

司教 佐藤千敬



宮城県に登録している宗教法人によって構成されている「宮城県宗教法人連絡協議会」というものがあります。その協議会の行事として、毎年「本山等研修」を実施していますが、それは《会員各宗教派の本山等において、施設・景観・宝物等に接し、各宗教派の核心に触れることにより、会員相互の理解と親睦を深めることを目的とする》ものです。

今年で15回目ですが、カトリックとしては第二回目(昭和56年)に函館のトラピストとトラピスチヌに案内し、今年初めての海外研修としてバチカンほかを訪ねることになりました。参加者は、神社庁3名、曹洞宗4名、時宗2名、単立仏経系7名、天理教2名、カトリック1名に県庁職員1名添乗員(カトリックの女性)1名の総勢21名でした。6月6日から14日までの9日間の旅でしたが、その中で印象深かったことを記してみます。

研修の最大の目標は6月8日の教皇一般謁見でした。ところが、教皇様の怪我・入院ということでした。しかし、カトリック中央協議会ローマ事務所長ブドロ・神父のはからいで、バチカンの諸宗教対話聖省長

官アリンゼ枢機卿に面会する機会が与えられました。日本から来た諸宗教者の集まりというので枢機卿も大変喜ばれ、懇切な歓迎の辞を述べられました。

多忙な枢機卿が退席された後、同省次官の任にある尻枝正行神父が30分程、第二バチカン公会議のカトリック教会における諸宗教対話の動向や意義などについて非常に有益な講話をしてくれました。バチカンにおいて日本語で話し合うことが出来たことは全く予想外のことです。参加者は非常に喜びました。



その後前日の報道で、一般謁見の代りに11時に教皇様が書斎の窓から挨拶と祝福をなされることが知らされていたので広場に向かいました。急な決定だったようで、一般謁見の場合より人々は少なめでした。一度は諦めた教皇様との対面を、遠く離れていましたが、広場に集まった各国からの巡礼者の歓声に答えられる教皇様の姿と声に接し参加者一同も感激していました。

バチカン美術館とシステイナ聖堂(完全に修復されたミケランジェロの「天地創造」や、「最後の審判」の天井画や壁画がある)も感銘深く、また、初代教会時代のカタコンベ(地下墓地)も印象深いものだったようです。

アシジではフランシスコのバジリカで朝6時半からの修道者の祈りと黙想、ミサに参加し朝食後、バジリカの二階の壁画によって聖フランシスコの生涯についての田川修道士の説明を聞き、一同感激しました。ルルドでは聖体行列と病者の祝福に感銘を受け、特にルルドで奉仕活動をするボランティアの人々に感服していました。

次の朝早く洞窟に行きましたが、ちょうどドイツ語でのミサの終わり頃で、続いてフランス語でのミサが捧げられました。同じミサであっても、その雰囲気随分違うことも驚きであったようです。このフランス系の巡礼団はアルコル依存症からの解放のために活動している団体であることを

知って、生活に根差した信仰に感心して
ました。

今回の研修の参加者は2名を除いて19名
が非カトリック者でしたが、全員が聖泉に
浴し、心身ともに清められたと感想を述
べていました。ほとんどの人がルルドの聖水
を持ち帰ったようです。

パリでは、不思議のメダルの教会や聖心
の教会を訪ね、最後にノートルダム大聖堂
での主日のミサに参加して今回の本山研修
のスケジュールを終わりました。

最後に、第二バチカン公会議に際して発
布された「キリスト教以外の諸宗教に対す
る教会の態度についての宣言」(一九六五年
十月二八日)からの抜粋を記しておきま
しう。

「カトリック教会は、諸宗教の中に見出
される真実で尊いものを何も排除しない。
：：それらは、教会が保持し、提示するも
のとは多くの点で異なっているが、すべて
の人を照らす真理の光線を示すこともまれ
ではない。しかし、教会はキリストを告げ
ているし、また絶えず告げなければならな
い。：：教会は自分の子らに対して、キリ
スト教の信仰と生活を証明しながら、賢慮
と愛をもって、他の諸宗教の信奉者との話
し合いと協力を通して、かれらのもとに見
出される精神的、道徳的富および社会的、
文化的価値を認め、保存し、さらに促進す
るよう勧告する。」

仙△ロYBU

創立二十五周年を祝う



「暗いと不平をいうよりも、すすんであ
かりをつけましょう」という呼びかけはテ
レビ、ラジオ番組(地域により放送時間が
違うことがある)でお馴染みの人が多い。

この番組の企画提供は心のともしび「善
き牧者運動」(YBU)がしている。この
運動の仙台・札幌・新潟三教区エリアの責
任担当司祭はケベック外国宣教会のローラ
ン・ジョリコール神父である。

今から二十五年前、仙台市霊屋(完ま)の
地で「仙台YBU文化センター」(以下文
化センター)を発足させた同神父は、仙台
教区で多くの働きをしながら、京都にある
YBU本部に資金、運営面で多大な貢献を
してきた。

文化センターでは広く市民にキリスト教
を宣教するために、各地の市民会館、デパ
ート、画廊等を会場に聖書展、映画会を開
き、さらに、内外知名人を招いての講演会
や音楽会、市民クリスマス、あるいは自動
車や外国旅行を賞品にしたバザーを行なう
など多彩な活動を展開してきている。

また、キリスト教を基盤とした西欧と、
日本古来の文化の交流をはかるために、外
国語の会話教室と華道、茶道、書道の教室
を開設している。

外国語会話教室の講師は外国からの信徒

宣教者や修道女があたり、会話教室の他で
も種々の宣教活動をし、華道、茶道、書道
の教室は、日本人信徒や一般の方々が奉仕
(ボランティア)する場にもなっている。

これらの活動の他に、文化センターでは
ジョリコール神父が特別に力を入れて、青
少年の健全育成のためガールスカウト・ボ
ーイスカウト活動をしている。

それらの活動が認められて、14年前に仙
台YBUは元七十七銀行会頭の故伊澤平勝
氏から土地の寄贈を受け、仙台市上杉に立
派な会館を建てている。

「仙台YBU文化センター」創立二十五
周年と、ジョリコール神父の司祭叙階四十
五周年を記念する感謝ミサは6月29日に司
教区センターで二百名の列席者を得て盛大
に行なわれた。

ミサは日本の宣教にジョリコール神父が
今まで働けたことに感謝し、また文化セン
ターの活動に協力した方々に神の祝福を願
って捧げられた。

挨拶に立ったジョリコール神父は、「援
助・賛助会員として、多くの信徒、市民が
仙台YBUの活動に協力したことに感謝し
ます。これからも一層の援助と祈りを願
います」と話した。

しかし、仙台YBUはYBUの放送事業
が、昨年から京都本部の変革と事務の合理
化のため本部で一元的に行なうことになっ
たことで、新たな転換を求められている。

仙塩地区教会学校リーダー研修会

今年も仙塩地区教会学校リーダー研修会が「ドミニコの家」で、東京からシスター影山を招いて6月11、12日に行なわれた。リーダーが参加した教会は仙塩地区8教会に加え、青森県から浪打、本町、篠田、岩手県から四ツ家、一関、福島県から会津若松とほぼ教区全域に渡っている。研修会は教区全体としての教会学校の問題を考える場として大変意義深いものであった。

講話は2回に分けて行なわれ、テーマに①現代の教会学校のありかた、②子供との接し方、③聖書に関する物語について（カリキュラム作成のこと）、④初聖体準備の指導法についてが取り上げられた。

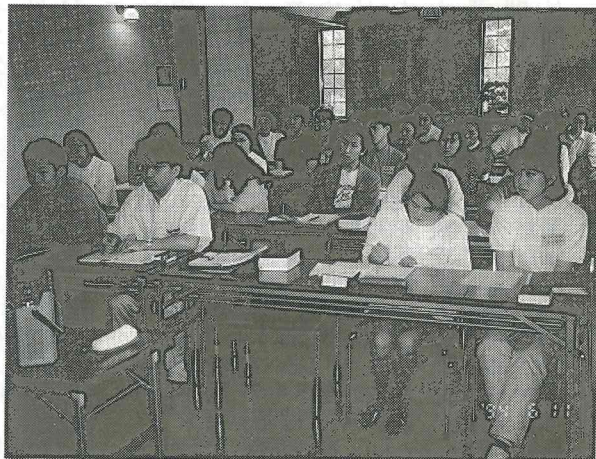
シスターは豊富な教会学校指導の経験をもとにして具体的に話し、各リーダーにも思い当たることが多く、非常に聞きごたえのある講話であった。

講話のあとは「話し合い」「親睦会」という形でシスターに質問したり、お互いの教会学校の情報交換を行なった。打ち解けた雰囲気の中でリーダーたちは参考になる意見を多数聞くことができ、有意義な時間となった。

シスターとの一問一答

Q. ミサ中、行儀の悪い子にシスターならなんと言いますか

A. いいんですよ、うるさくたって。静



かにすることや行儀に集中するための時間じゃないんだから。：早く大きくなってこの椅子に座りやすくなればいいね。

Q. お祈りのときに奇声を上げる子がい

A. みんなで奇声をおもいきりあげてみることに「神様には聞こえないぞお」。次に、じゃあ思いっきり小さい声出してみよう！じゃあお祈りするときはどのくらい？じゃあお祈りするときは？と子供に呼びかけながら：：さりげなく、「父と子と聖霊の：：」と。

子供はねえ、秩序が好きなの。自分たちが安心できるために。だから、その秩序の中にお祈りするまでの一定のリズムを入れ

てあげればいいと思います。
研修会は、参加者全員が初夏の風薫る野外で、研修会の体験の分かち合いをしながら『子供とともにささげるミサ』を捧げて終わった。

参加者の感想

「私は教会学校が現代の社会の中ではなおざりにされがちな『感性』と『実行』を重視し、共感しながら、子供たちに福音を伝えていくべきであるということをリーダー研修会で改めて確認することができた。充実した2日間だった。関わった方々と素晴らしい機会をくださった神様に感謝いたします」
元寺小路教会・風間理郎

聖書言の三言菫木

あなたたちが主と共にいるなら、主もあなたたちと共にいてくださる。もしあなたたちが主を求めらるなら、主はあなたたちに御自分を示してください。しかし、もし主を捨てたら、主もあなたたちを捨て去られる。
(歴代下15・2)

今の時代にこそ聞かなければならぬ神の言葉。求める心と、何を求めて生きているかが問われている。神が呼びかけ、注意を促している人はどの誰で、どこにいる人だろうか。



パリゾー神父のこと

一納骨式前のミサ説教

ジラール・P・H (ドミニコ会)

去年の今ごろでした。私は日本におけるドミニコ会の歴史について文章を書き終えた時、パリゾー神父さんに電話しました。「40ページのテキストに目を通してくれなにか」と頼むと、彼はすぐ願いに答え、そして次のように言い換えました。「夏の間三日間だけでも休暇をとり一緒に出かけましょう。いい車を買ったよ。どうですか」私は喜んで賛成し、夏の間、予定通り東北の景色を眺めながら、一緒に楽しい旅をしました。別れるとき、パリゾー神父さんは「来年、海岸に沿って八戸まで行きましょう。あの地方もすばらしいですよ」と勧めました。

しかし、予定通り行くことが出来なくなっていました。パリゾー神父さんは召され、別の旅、人間誰もが歩む旅路を終え帰天しました。53歳でした。

パリゾー神父さんは一九七〇(昭和45)年に来日して、約24年間、宣教師の活動を真剣に全うしました。割りと短い期間でしたが、だいたい活発でした。

一九八八年には北仙台教会に派遣され、まず、助任として、そして、主任司祭として最後の日まで働き「さようなら」と言う

機会さえないまま帰天しました。

人間には欠けている所があるのは事実です。神父さんの性格が強いものでしたので、気難しい面も現われました。というのは、自分が正しいと思うときに堅く冷たい調子で話したり、決めたりしました。

その半面良いところが一杯でした。例えば神学や、哲学また教会史、宗教学、人類学などに関する本を読むことが大好きでした。インテリだったわけではありません。それが自分の信仰を深め、磨くためだったのでしよう。

課せられた仕事や要求などを手早く、上手に、力を込めて果たしながらパリゾー神父さんは、ドミニコ会と日本の教会のために生涯を捧げた、といって正しいと思います。

人生の幕が降りると、どのような場面が現われるでしょうか？身近な人が死ぬと必ず同じ疑問が私たちの心に浮かんで来ます。死の向こう側には何があるのでしょうか？「死のかたには何も無い。生と死の壁の向こう側は無である。」という説を抱く人は少なくありません。私はこの説を説く人達を尊重します。しかし、これは私たちの信仰ではありません。

この間、パリゾー神父さんのお父様からお手紙をいただき、次のように書き記されていきました。

「長男の死去にあたり、ドミニコ会をは

じめ、北仙台教会の信者の皆さま、また多くの方々に変な世話になりました。死去のニュースは突然だったため、今の私には信じられないほどです。皆さまと私の間を隔てる距離は広いので、直接感謝の気持ちをお伝えできないのは残念なことです。しかし、ご安心ください。私は決して絶望していません。むしろ皆さまの祈りのおかげで、息子がすでに天国の幸せを味わっていることを知っています。」

お父様の確信は私たちも同じなのです。死とは滅びではなく、新たな命の門です。この門をくぐり、神の栄光に包まれている故人の取り次ぎを願ひ、また、神様が遺族の方々へ慰めの恵みを豊かに注いでくださるように、ミサを通して願ひましょう。

「北仙台教会だより」より

<h1>ROMERO</h1>	
□メ□	
 <p>16ミリ映画レンタル開始!</p>	<p>エルサルバドルの殉教者</p> <p>人びとの叫びが司教を変えた…。 弱く貧しい人びとを守るためにロメロは戦った—唯一の武器、真実をもって…。 1980年、エルサルバドルでの感動の実話。</p>
	<p>お問い合わせ・お申し込みは 〒107 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会 視聴覚普及促進部 ☎03-3479-3943 FAX03-5474-7494</p>
<p>★ビデオ(VHS・日本語字幕版105分) 3,800円も好評発売中!</p>	

学校法人 東北カトリック学園
設立10周年を迎える

カトリック仙台司教区を設置母体に一九八四（昭和59）年に設立され、教区内に現在30園を擁する学校法人東北カトリック学園が設立10周年を迎えた。

「十字架上の犠牲と復活を通して、人類に対する限りない神の愛を身をもって示しまた、子どもに対する深い尊敬を弟子たちに求めたキリストの教えと願い」に応えていくことを教育理念とする学園は、多くの人に支えられて今日を迎えたものである。

学園は設立10周年を記念して、8月18日に司教区センターで記念式典を催すことになった。式典は永年勤続者の表彰、続いて作家の村松英子さんの記念講演、その後別会場で祝賀会を予定している。

幼稚園経営は全国的に小子化が進展するなか厳しさを増しているが、学園は多くの方の理解と支援を願いながら新たな10年へと歩み続けて行くことを願っている。

一 情 報



修道院開設と閉鎖

○コングレガシオン・ド・ノートルダムでは4月から福島市野田町に修道院を新設した。住所は福島市野田町一十二丁。初代院長はM・ゲレッツェン。

○オタワ愛徳修道女会では宮城県・角田修道院を6月末で閉鎖した。

キリシタン殉教公園資料館

米川教会に近い岩手県藤沢町大籠のキリシタン殉教公園内にキリシタンに関する資料館が開館した。記念館は江戸時代に三百人を超す殉教者を出した地であることを記念し、藤沢町が郷土史の理解のため建てたものである。

黒川キリシタン塚 野外ミサ

会津若松教会では6月5日に殉教者の遺跡「黒川キリシタン塚」で野外ミサを行った。遺跡は郷土史家により60余名の処刑が明らかにされたところ。供養碑が建てられた昭和37年から続いているミサに今年は60名が参列した。

会津地区3教会では10月16日に、猪苗代キリシタン殉教碑前で野外ミサを予定している。

第2回典礼研修会 開催

「典礼をより豊かなものに」をテーマに8月28日に司教区センターで研修会が開かれる。講師・小田賢二。募集70名。

申込締切8月10日。参加費二千五百円
申込・問合せ 葉書に電話番号を書き

オタワ愛徳修道女会内

「典礼研修会」係へ

日本カトリック研修センター

ヤング海外体験学習

日時 8月22日(月)16:00から
8月29日(月)まで
対象 青年信徒(高校生以上)
募集人数 25名
訪問先 韓国
費用 110,000円
問合せ 466 名古屋市昭和区広路町隼人30
日本カトリック研修センター
研究企画部 TEL 052-831-5037
FAX 052-831-5317

◎出発前に研修センターでオリエンテーション学習をします。

東日本 典礼大会

☆ 一人一人の祈りから教会の祈りへ ☆

主催 東京教会管区教区典礼委員会
日本カトリック典礼委員会
典礼プロジェクトチーム
時 11月3日(木)14時～5日(土)12時
場所 仙台司教区センター(元寺小路教会)
募集人数 150名(申込先着順)
参加費 3,000円
参加者に関する方・グループ等
宿 参加者に手配してもらいます。
申込締切 9月20日(火)
申込先 〒135 江東区潮見2-10-10
カトリック中央協議会
典礼プロジェクトチーム
※詳細は小教区にある案内書をご覧ください。